

崇城大准教授 佐藤和歌子さん

日展・日本画で会員賞



崇城大芸術学部准教授の佐藤和歌子さん(44)＝熊本市＝の「ソロモンの指環」が、第11回日展日本画部門の会員賞に選ばれた。会員賞は日本画、洋画、彫刻、工芸美術、書の5部門から1人ずつ選出され、日本画で熊本から選ばれたのは2009年の中村賢次・同大芸術学部教授以来。佐藤さんは「新たな挑戦を試みた作品だったのでうれしい」と喜びを語る。

受賞作は、指輪の力で動物たちと会話ができるソロモン王をモチーフに、民族衣装をまとった王とハイエナたちを幻想的に描き、審査では「我が国ならではの茶の持つ複雑な深さが画面を覆い、作者の持つ日本画の技術の確かさに裏付けされた魅力ある作品」と評価された。

これまで人間と動物の関わりを細やかな筆致と豊かな色彩で描いてきた。今回は「形を形とし

て捉えず、その存在を描き出したい」との思いから、岩絵の具のにじみや濃淡を多用し、落ち着いたトーンで表現することにチャレンジした。

ハイエナは狩りが得意にもかかわらず、「獲物を横取りする」といった誤解を受けることが多い。悪者扱いされがちな生き物の声に静かに耳を傾ける王の姿は、争いの絶えない現実を生きる私たちにコミュニケーションの本質を問いかける。「人種や言葉を超える何かがあればいいのに、との思いを込めて描きました」

崇城大芸術学部日本画コースに1期生として入学し、同大学院芸術研究科を修了。母校で



佐藤和歌子さんの日本画「ソロモンの指環」

日本画を教えながら、日展特選を2回受賞し、2022年に会員になるなど着実にキャリアを重ねてきた。「これからも形がないもの、背景にあるものを描き続けていきたい」（澤本麻里子）